

柳井市避難所生活体験活動

〈ねらい〉

地震・津波発生時における避難訓練と発生後の避難所生活を体験し、災害時における的確な判断力や行動力を育成するとともに、地域住民と協力して災害を乗り越えようとする強い心や思いやりの心、集団生活におけるリーダーとしての資質を養う。



実施内容

- 1 実施日時：平成25年8月3日（土）・4日（日）
- 2 実施場所：柳井市立柳井南小学校
- 3 参加者：柳井南小学校児童（4・5・6年生）12人、保護者4人、教職員10人
柳井南中学校生徒（1年生）18人、保護者4人、教職員5人
伊保庄地区住民20人、柳井市教育委員会5人、柳井市危機管理室1人
柳井市スクールガードリーダー2人、山口県教育委員会2人

4 プログラム

【1日目】8月3日（土）

13:00	13:30	15:00	17:00	19:00	20:00	21:30	
開 会 行 事	避 難 訓 練	【研修Ⅰ】 ○地震・津波の発生メカニズムを知る ○減災方法や被災後の対応を学ぶ	夕食準備 (備蓄食) 【研修Ⅱ】 緊急避難用品を学ぶ	夕 食	班活動 ○避難所生活の決まり等を学ぶ ○班目標の決定	寝 床 作 り	就 寝

【2日目】8月4日（日）

6:00	6:30	7:30	8:30	9:00	10:00	10:50	11:00	
起 床	避 難 訓 練	【研修Ⅱ】 緊急避難用品を学ぶ 朝食準備 (備蓄食)	朝 食	会 場 片 付 け	【研修Ⅲ】 ○心肺蘇生法訓練 ○AED使用訓練	振 り 返 り	閉 会 行 事	保 護 者 へ の 引 き 渡 し 訓 練

5 活動の様子

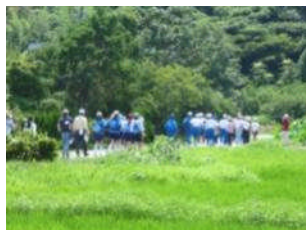
1日目

《避難訓練》

大津波警報の放送を聞き、教頭の指示の下、参加者全員が素速くグラウンドに避難し、人員確認をしました。その後、津波の襲来を想定し、二次避難場所（星の見える丘工房）に避難を開始しました。真夏の太陽が照りつける中、参加者は学校から400m離れた二次避難場所へ迅速に移動し、10分で避難を完了しました。



〔グラウンドに一次避難〕



〔二次避難場所へ移動〕



〔二次避難場所へ集合・点呼〕

避難訓練終了後、山口県学校防災アドバイザーの幸坂美彦さんから、訓練の講評及び日頃からの備えについて講話を聞きました。

ポイント

- ①過去の災害を知る。
 - ②日頃から避難場所の確認をする。
 - ③過去の災害を、次の世代に伝える。
- ※津波で避難した場合、正確な情報を入手しながら最低2時間は避難所にとどまること。



〔防災アドバイザー講話〕

《研修Ⅰ》下関地方気象台による地震・津波災害等についての講義

地震・津波の発生メカニズムや、実験を通して津波の破壊力や地面の液状化について学びました。また、日常生活における減災への取組や被災後の対応についても学ぶことができました。



〔ビデオの視聴〕



〔津波の破壊力実験〕



〔液状化実験〕

《夕食準備》柳井市危機管理室の指導

備蓄食（アルファ化米）を使い、夕食を作りました。50人分の備蓄食が入った箱を開け、中身を取り出し、耐熱袋に具材を入れ熱湯を注ぎ、30分ほどでドライカレーができました。

ドライカレーと支給された水のみでの夕食は、家庭での夕食と違いとても質素で量も少ないものでした。しかし、簡単においしい食事が作れたことは、本当に驚きでした。



〔具材に熱湯を注ぐ〕



〔ドライカレーを取り分ける〕



〔おいしくいただきました〕

《研修Ⅱ》緊急避難用品の学習

緊急避難用品の説明を受け、実際に品物を手に取り確認しました。また、水が使えないときのための排便袋と凝固剤、人目を避けるためのトイレ用テントを用いての緊急用簡易トイレの疑似体験もしました。

緊急避難用品

缶入乾パン 5年保存水 ロープ ローソク 給水バッグ タオル 防寒保温シート
合羽 軍手 ブルーシート LED ライト 救急セット



〔避難用品の説明〕



〔避難用品の確認〕



〔簡易トイレの疑似体験〕

《班活動》

避難所生活で困ることについての意見を出し合い、他人に援助してもらわなければならないことと、自分たち避難者が解決しなければならないことを話し合いました。その中で、避難所生活に必要な約束（規則）を考え理解しました。また、各班の避難所生活の目標を決め、段ボールに書き込みました。



〔話し合い〕



〔班目標の決定〕



〔段ボールに班目標を記入〕

《寝床作り》

段ボールを使った間仕切りの作り方を学び、自分たちの寝床を作りました。各班とも全員で協力し、ユニークな寝床を作りました。床に段ボールを2枚程度敷くだけで、寝心地は格段とよくなりました。しかし、あまりにも間仕切りを高くしっかり作ってしまい、暑さで真夜中に目が覚めた人もいました。



〔間仕切りの見本〕



〔寝床作り〕



〔寝床完成〕

2日目

《ブラインド方式の避難訓練》

朝6時30分に、予告なしの避難訓練を実施しました。子どもたちは、慌てることなくグラウンドに集合し、人員確認と報告を行いました。その後、二次避難場所に整然と移動できました。前日の訓練が、しっかり身に付いていました。



《朝食準備》柳井市危機管理室の指導

前日の夕食同様、備蓄食を使い、朝食を作りました。

メニュー わかめご飯 乾パン 水



《研修Ⅲ》柳井消防署による心肺蘇生法及びAED使用についての講習

消防署員5名から、心肺蘇生法とAED使用方法を学びました。機敏な動作と、的確・丁寧な説明で、とても分かり易く楽しく学習できました。心肺蘇生法は見た目以上に大変で、一人では1～2分継続するのが精一杯に思えました。AEDは、音声ガイドにより簡単に使用できました。



〔消防署員の説明〕



〔心肺蘇生法訓練〕



〔AED使用訓練〕

《活動の振り返り》

2日間の活動を振り返ってみました。

- ・もし、このようなことがあったら、知らない人でも協力したいと思います。(小4)
- ・避難所生活は、こんなに大変だと分かりました。(小5)
- ・津波が来たときは、自分で自分の身を守るようにしたいと思います。(小5)
- ・いつ災害が起きるか分からないので、準備をしようと思いました。(小6)
- ・これまで関心のなかった災害に興味をもち、災害に対する備えの仕方を学ぶことができました。(中1)
- ・避難所生活になった時は、自分よりもっと弱者がいると思うので、その人を優先したいと思います。(中1)



〔児童生徒アンケート結果〕

とてもあてはまる：5 ややあてはまる：4 どちらともいえない：3
あまりあてはまらない：2 まったくあてはまらない：1

No	項 目	平均値
1	避難するときに大切なことが分かった。	4.6
2	地震や津波が起こるしくみが分かった。	4.5
3	避難所生活に必要なことが分かった。	4.5
4	心肺蘇生法(しんぱいそせいほう)の仕方が分かった。	4.8
5	みんなと協力することができた。	4.3
6	思いやりの心をもって過ごすことができた。	4.1
7	リーダーとして行動することができた。	3.3
8	災害に備えて準備をしておこうと思う。	4.0
9	実際に災害が起こったとき、正しく行動できると思う。	4.2
10	今回の体験活動は役に立った。	4.3

《保護者への引き渡し訓練》

最後に、保護者への引き渡し訓練を行いました。どの子どもたちにも、保護者の顔を見ると安堵の表情が見られました。引き渡し開始から30分後に、最後の子どもの引き渡しが完了しました。

